

萬葉と詩經・文選

久松 潜 一

比較文學の研究が近時盛んである。萬葉集に於いても比較文學の研究が一つの課題となるが、その場合には中國文學との關係が中心の問題になる。そうして中國文學といつても萬葉集が影響を受けてゐるといふ点から云へば、詩經や文選が第一に考へられて來る。詩學から言へば六朝詩學の影響が著しいが、大きな作品の上でいへば詩經と文選とが考へられる。萬葉集の歌風から云へば文選よりも詩經に近いとも云へる。詩經の國風は萬葉集の東歌に近いとも云へる。歌經標式の歌經は萬葉集をさして居ると私はひそかに考へて居り、歌經標式は萬葉集による標式を示したとも見られる。そうして萬葉集を歌經とするのは詩經に對していつたのであらう。この意味で萬葉集は東方の詩經と云ふ意識もしくは自覺があつたであらう。

たださういふ点からいふと文選に對してはどのやうに考へられたであらうか。文選の影響もかなり受けてゐる事は明らかである。それとともに萬葉人にとつて詩經と文選とがどの様な相違を以て認められたかといふ事が考へられる。六朝詩學の影響を受けて萬葉時代に於いて文選の價値も高く認められたであらうが、詩經と比べてどういふ風に位置つけてゐたであらうか、これは比較文學の問題であるとともに世界文學の問題にもなるであらう。